

LL 教室授業 4 年半を振り返って

旭 覚

本学における最初の LL 教室授業は「専門英語 LL」だった。若い頃には LL 教室の管理を任されたりして機械に親しんでいたが、後年文学関係の講義ばかりだった為に急には適応し難い感じもしたので、ビデオ教材が準備されていた、Sanders・曾根田・渡辺（編注）：Hawthorne, *The Scarlet Letter*, 開文社, 1992 を採用する事にした。文学的な観点からのコメントも加えながら、イタリア生まれの Vignola 監督のアメリカ映画のシナリオ版を少しずつ鑑賞して、成金女優 Moore 演じる Hester や UCLA の演劇の講義を担当した事もあると言う Albright 演ずる Dimmesdale の歯切れの良い英語の科白を通じて会話英語に習熟させる試みを行った。

教室の機械を操作する上で一番始めに感じた事はフロッピーの挿入位置が教卓の下の奥の低い所にあって深くうつむかなければならず、キーの鍵穴の場所も教卓天板の下の少し奥にあって操作しにくいと言う事であった。毎度授業の開始と終了に出し入れする必要があるのに何故このような場所になっているのか不可解である。これほどではないが、ビデオや CD の挿入口やその操作パネルの位置も決して快適とは言えない。ビデオの操作は教卓上のタッチパネルで出来るから救われるが、操作方法が慣れるまでは結構ややこしい。将来的により分かり易く改善される事を望む。教卓上のカセットテープの取り扱い方（特に教室のスピーカーに音を流す方法）についても同様に感じる。

2 年目・3 年目は LL に相応しい教材として、小池（編著）：*Basic Exercises for TOEIC/TOEFL 21 Approaches 1・2*, 北星堂を付け加えた。これは音声教材だけだったので、前年のビデオも併用して視・聴覚の 2 面の実を挙げようという積もりであったが、時間不足になり教材を十分にはこなし切れず反省しているが、一応それなりのヴァライアティを出す事は出来たかとも思う。

カセットテープでディクテーションをする時に機械の中にポーズを挿入する便利な仕掛けがあるのを見つけて、何度か利用してその便利さに感心したものであるが区切りの取り方が長すぎる場合があって困惑した記憶がある。ポーズ時間を自由に設定出来るのは便利であるが、区切の設定も任意に出来るようになると、もっと利用しやすいであろう。カリキュラム改革に伴ってか「イングリッシュ・メディア・ラボ」というハイカラな科目名も併用されるようになって、益々 IT の重要性が意識され、教室のパソコンを利用し始めたのもこの頃だったろうか。

4 年目は MACMILLAN のビデオ教材、大八木・Kiggel: *Viva! San Francisco — Video Approach to Survival English (1998)* を使った。アメリカ留学中のケイコの遭遇する様々な日常生活場面における会話英語を Part 1 旅行編、Part 2 留学編、各 10 章でドラマ風に構成したもので、美しい映像と効果音を楽しみながら学習出来たと思う。各章の中に状況に即した現地アメリカ人の生々しい現実を

取材するインタビューが配置されていて、リアリティを感じさせる仕組みになっているが、この部分は文字通り生の英語で縦横無尽に喋りまくる感じで聞き取りが難しい。こういう場合、映画の字幕スーパーのように映像の中に英語文字を出せると理解しやすいであろう。教材にスーパーが入ってなくても、LL教室で簡単に入れるような装置は作れないであろうか。

今年5年目は小島・Trader: *Making Progress with the TOEIC Test*, 金星堂を使っているが、この教科書にはCDが付属していて学生の自宅自習を容易にしている。勿論教室でもCDの使用は可能であるが、同じ内容のカセットテープも準備されていて、部分的にリピートして繰り返して聞かせたり、任意に途中から利用するにはテープの方が使い易い事に気付いた。CDの方が音質は優れていると言われ、勿論耐久性能でもテープに勝ると思われるが、このような小回りが利くと言う点では少なくとも現在の本学のLL装備に関する限り、テープの方が使い易いようである。将来的にCD・MDそのものの性能が改良され、LL教室の装置が改善されて(教卓の天板中央で操作できるようにする等も含めて)CDやMDがもっと使い易くなる事を願う。

LL機器の使用中にハウリングのようなノイズが発生して困った事があったが、MMLの係員に調査をお願いした結果、ヘッドフォンをフロッピー挿入口の上に置いた事が原因と判明した。何か機器同士の干渉が起こるらしい。こういう事も素人には気付きにくいので、予めフルプルフに設計しておいて欲しいと思う。使用しない場合には邪魔になるので、マイクやヘッドフォンを片付けるスペースがあるとよい。

序でに若干希望を述べれば、LL教室にフロッピー・テープ・ビデオ・CD・書類等、授業に使用する教材類を保管する小型ロッカーも準備されれば便利であろう。又ホワイトボードは黒板より衛生的で結構であるが、鮮明に書けないマーカーが多いのに閉口した。随時点検してインクの薄いものは撤去して欲しい。機器やキーボードに埃が溜まっていたりするのも含めて、こういう些細な状況に対応する平凡なメンテも高級な機器の詰まったLL教室の快適な利用を助けてくれる面がある事がもっと認識されるようになる事を願って止まない。

以上4年半にわたるLL教室利用を顧みて気付いた事を取り上げ、検討して、感想を述べてみた。将来の改善に少しでも役立つ事を希望しつつ筆をおく。